

改訂薬学教育モデル・コアカリキュラム		本書の対応章
D 衛生薬学		
D1 健康		
(1) 社会・集団と健康		
①健康と疾病の概念	1. 健康と疾病の概念の変遷と、その理由を説明できる。	6章
②保健統計	1. 集団の健康と疾病の現状およびその影響要因を把握する上での人口統計の意義を概説できる。 2. 人口統計および傷病統計に関する指標について説明できる。 3. 人口動態（死因別死亡率など）の変遷について説明できる。	4章
③疫学	1. 疾病の予防における疫学の役割を説明できる。 2. 疫学の三要因（病因、環境要因、宿主要因）について説明できる。 3. 疫学の種類（記述疫学、分析疫学など）とその方法について説明できる。 4. リスク要因の評価として、オッズ比、相対危険度、寄与危険度および信頼区間について説明し、計算できる。（知識・技能）	5章
(2) 疾病の予防		
①疾病の予防とは	1. 疾病の予防について、一次、二次、三次予防という言葉を用いて説明できる。 2. 健康増進政策（健康日本21など）について概説できる。	7章
②感染症とその予防	1. 現代における感染症（日和見感染、院内感染、新興感染症、再興感染症など）の特徴について説明できる。 2. 感染症法における、感染症とその分類について説明できる。 3. 代表的な性感染症を列挙し、その予防対策について説明できる。 4. 予防接種の意義と方法について説明できる。	8章 7章、8章
③生活習慣病とその予防	1. 生活習慣病の種類とその動向について説明できる。 2. 生活習慣病の代表的なリスク要因を列挙し、その予防法について説明できる。 3. 食生活や喫煙などの生活習慣と疾病の関わりについて討議する。（態度）	9章
④母子保健	1. 新生児マスキングの意義について説明し、代表的な検査項目を列挙できる。 2. 母子感染する代表的な疾患を列挙し、その予防対策について説明できる。	7章 8章
⑤労働衛生	1. 代表的な労働災害、職業性疾病について説明できる。 2. 労働衛生管理について説明できる。	10章
(3) 栄養と健康		
①栄養	1. 五大栄養素を列挙し、それぞれの役割について説明できる。 2. 各栄養素の消化、吸収、代謝のプロセスを概説できる。 3. 食品中の三大栄養素の栄養的な価値を説明できる。 4. 五大栄養素以外の食品成分（食物繊維、抗酸化物質など）の機能について説明できる。 5. エネルギー代謝に関わる基礎代謝量、呼吸商、推定エネルギー必要量の意味を説明できる。 6. 日本人の食事摂取基準について説明できる。 7. 栄養素の過不足による主な疾病を列挙し、説明できる。 8. 疾病治療における栄養の重要性を説明できる。	1章 —
②食品機能と食品衛生	1. 炭水化物・タンパク質が変質する機構について説明できる。 2. 油脂が変敗する機構を説明し、油脂の変質試験を実施できる。（知識・技能） 3. 食品の変質を防ぐ方法（保存法）を説明できる。 4. 食品成分由来の発がん性物質を列挙し、その生成機構を説明できる。 5. 代表的な食品添加物を用途別に列挙し、それらの働きを説明できる。 6. 特別用途食品と保健機能食品について説明できる。 7. 食品衛生に関する法的規制について説明できる。	2章
③食中毒と食品汚染	1. 代表的な細菌性・ウイルス性食中毒を列挙し、それらの原因となる微生物の性質、症状、原因食品および予防方法について説明できる。 2. 食中毒の原因となる代表的な自然毒を列挙し、その原因物質、作用機構、症状の特徴を説明できる。 3. 化学物質（重金属、残留農薬など）やカビによる食品汚染の具体例を挙げ、ヒトの健康に及ぼす影響を説明できる。	3章

改訂薬学教育モデル・コアカリキュラム		本書の対応章
D2 環境		
(1) 化学物質・放射線の生体への影響		
①化学物質の毒性	1. 代表的な有害化学物質の吸収、分布、代謝、排泄の基本的なプロセスについて説明できる。	11章
	2. 肝臓、腎臓、神経などに特異的に毒性を示す代表的な化学物質を列挙できる。	13章
	3. 重金属、PCB、ダイオキシンなどの代表的な有害化学物質や農薬の急性毒性、慢性毒性の特徴について説明できる。	
	4. 重金属や活性酸素による障害を防ぐための生体防御因子について具体例を挙げて説明できる。	—
	5. 薬物の乱用による健康への影響について説明し、討議する。(知識・態度)	14章
	6. 代表的な中毒原因物質の解毒処置法を説明できる。	—
	7. 代表的な中毒原因物質(乱用薬物を含む)の試験法を列挙し、概説できる。	—
②化学物質の安全性評価と適正使用	1. 個々の化学物質の使用目的に鑑み、適正使用とリスクコミュニケーションについて討議する。(態度)	—
	2. 化学物質の毒性を評価するための主な試験法を列挙し、概説できる。	13章
	3. 毒性試験の結果を評価するのに必要な量-反応関係、閾値、無毒性量(NOAE)などについて概説できる。	
	4. 化学物質の安全摂取量(1日許容摂取量など)について説明できる。	
	5. 有害化学物質による人体影響を防ぐための法的規制(化審法、化管法など)を説明できる。	
③化学物質による発がん	1. 発がん性物質などの代謝的活性化の機構を列挙し、その反応機構を説明できる。	12章
	2. 遺伝毒性試験(Ames試験など)の原理を説明できる。	
	3. 発がんに至る過程(イニシエーション、プロモーションなど)について概説できる。	
④放射線の生体への影響	1. 電離放射線を列挙し、生体への影響を説明できる。	15章
	2. 代表的な放射性核種(天然、人工)と生体との相互作用を説明できる。	
	3. 電離放射線を防御する方法について概説できる。	16章
4. 非電離放射線(紫外線、赤外線など)を列挙し、生体への影響を説明できる。	—	
(2) 生活環境と健康		
①地球環境と生態系	1. 地球規模の環境問題の成因、人に与える影響について説明できる。	16章
	2. 生態系の構成員を列挙し、その特徴と相互関係を説明できる。	
	3. 化学物質の環境内動態(生物濃縮など)について例を挙げて説明できる。	
	4. 地球環境の保全に関する国際的な取り組みについて説明できる。	
	5. 人が生態系の一員であることをふまえて環境問題を討議する。(態度)	
②環境保全と法的規制	1. 典型七公害とその現状、および四大公害について説明できる。	21章
	2. 環境基本法の理念を説明できる。	
	3. 環境汚染(大気汚染、水質汚濁、土壌汚染など)を防止するための法規制について説明できる。	
③水環境	1. 原水の種類を挙げ、特徴を説明できる。	17章
	2. 水の浄化法、塩素処理について説明できる。	
	3. 水道水の水質基準の主な項目を列挙し、測定できる。(知識・技能)	
	4. 下水処理および排水処理の主な方法について説明できる。	
	5. 水質汚濁の主な指標を列挙し、測定できる。(知識・技能)	
	6. 富栄養化の原因とそれによってもたらされる問題点を挙げ、対策を説明できる。	
④大気環境	1. 主な大気汚染物質を列挙し、その推移と発生源、健康影響について説明できる。	18章
	2. 主な大気汚染物質を測定できる。(技能)	
	3. 大気汚染に影響する気象要因(逆転層など)を概説できる。	
⑤室内環境	1. 室内環境を評価するための代表的な指標を列挙し、測定できる。(知識・技能)	19章
	2. 室内環境と健康との関係について説明できる。	
⑥廃棄物	1. 廃棄物の種類と処理方法を列挙できる。	20章
	2. 廃棄物処理の問題点を列挙し、その対策を説明できる。	
	3. マニフェスト制度について説明できる。	